

事業の実施状況・効果発現状況

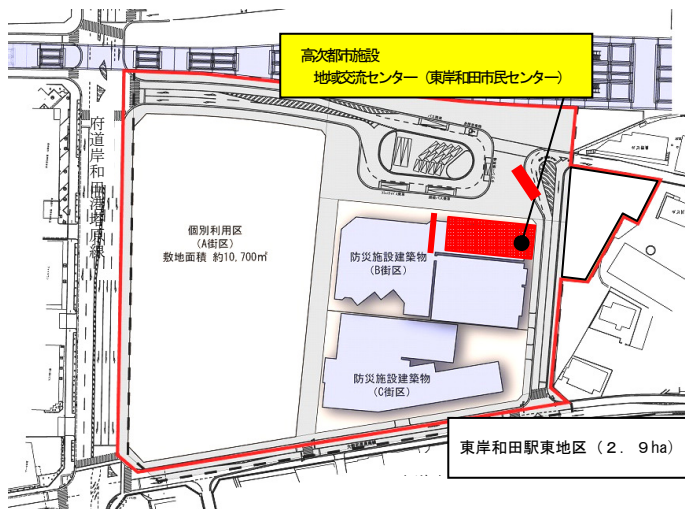
◎ 基幹事業（高次都市施設）

地域交流センター整備（東岸和田市民センター）

事業費；504,214千円（本工事費 168,916千円、床取得費 335,298千円）

【整備状況】

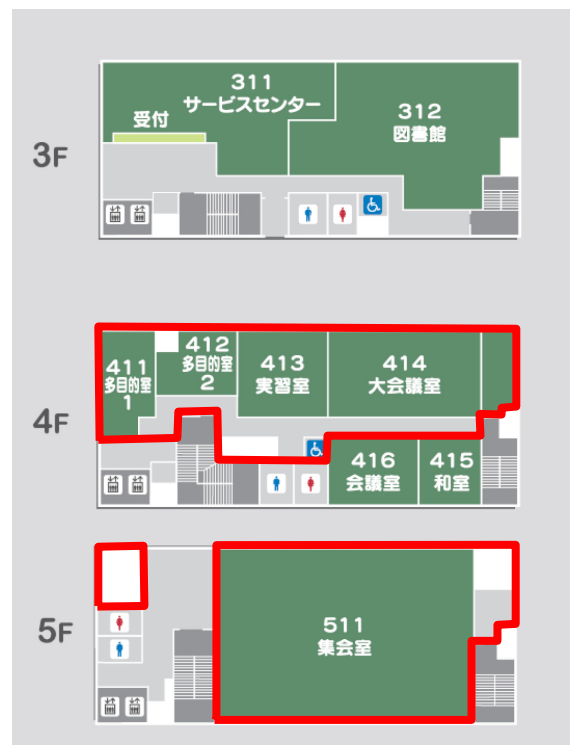
位置図



所在地 土生町4丁目3番1号
敷地面積 4,033㎡
延床面積 1,462.6㎡
構造 鉄骨造5階建て

【整備内容】

施設案内



地域交流センター整備事業

【整備効果等】

- ・ 防災街区整備事業による都市基盤整備にあわせ、商業施設との相乗効果により団体活動の活性化による賑わいが創出され、地域における中枢施設、地域住民が交流する場として一定の機能が発現した。
- ・ イベント開催の判断材料である立地条件の好転、様々な用途に対応できる設備の充実により開催イベントのバリエーションが拡大。イベント参画機会の増加により地域交流に寄与した。

集会室



集会室

- ・ 地区市民協議会の総会など 200 人規模の集会に利用
- ・ バレーボールや卓球などスポーツ活動にも多目的に活用可能
- ・ 面積 434.94 m²

大会議室



大会議室

- ・ 60 名～80 名の研修会や会議に利用
- ・ 子どもバレー等の軽運動にも利用できるよう鏡、手摺を設置
- ・ 面積 144.03 m²

会議室



会議室

- ・ 30 名～40 名の研修会や会議に利用
- ・ 面積 52.39 m²

多目的室 1



多目的室 1

- ・ 陶芸、絵画など工芸室として利用
- ・ 机やいすが可動式であり、電源の配置を工夫し、小規模の研修会・会議にも利用可能
- ・ 面積 48.21 m²

多目的室 2



多目的室 2

- ・ 主に保育室として利用
- ・ 研修会や座談会などにも利用可能
- ・ 面積 46.66 m²

実習室



実習室

- ・ 主に調理実習に利用
- ・ 車椅子用の調理台を設置
- ・ 調理台を机代わりに会議を行うことも可能
- ・ 面積 66.72 m²

和室



和室

- ・ 手芸、習字、着付けほか車座になったの憩談会も可能
- ・ 面積 34.47 m²

事業の実施状況・効果発現状況

◎ 基幹事業（地域生活基盤施設）

施設案内板設置（1箇所）・案内板設置（1箇所）

事業費；7,790千円

【整備状況】

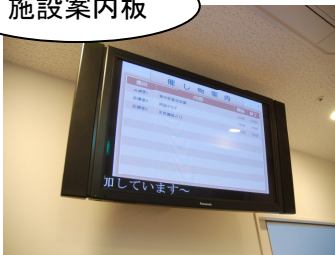


【整備効果等】

- ・施設案内板を設置したことで、公民館・図書館それぞれの活動や両施設がタイアップした行事等における円滑な誘導が図られ、参加者に対する利便性の向上に寄与した。
- ・案内板を設置したことで、地域の地図情報や市民活動情報などの情報発信機能が拡充され、交流と利便性の向上に寄与した。

【整備内容】

施設案内板



〈地域生活基盤施設〉

施設案内板設置

- ・1階入り口、3階サービスセンターロビーにモニターを設置

案内板



〈地域生活基盤施設〉

案内板設置

- ・地域交流センターの位置情報と活動内容の情報発信
- ・駅前の地域の案内板を移設

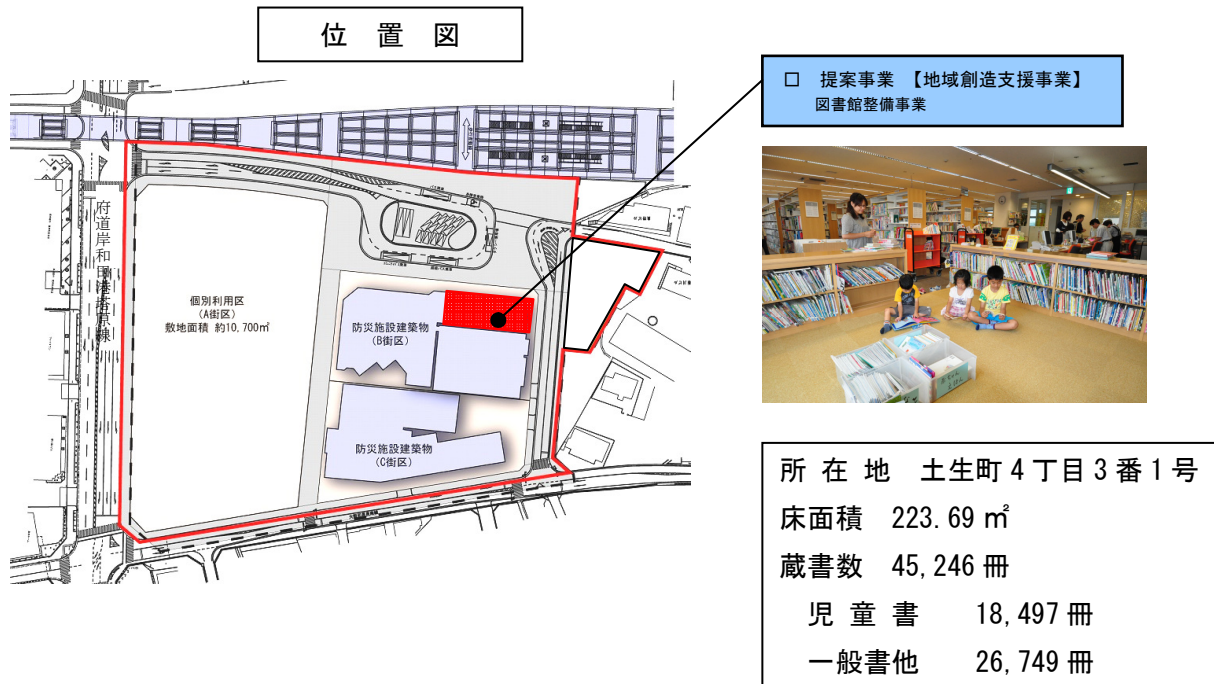
事業の実施状況・効果発現状況

◎ 提案事業（地域創造支援事業）

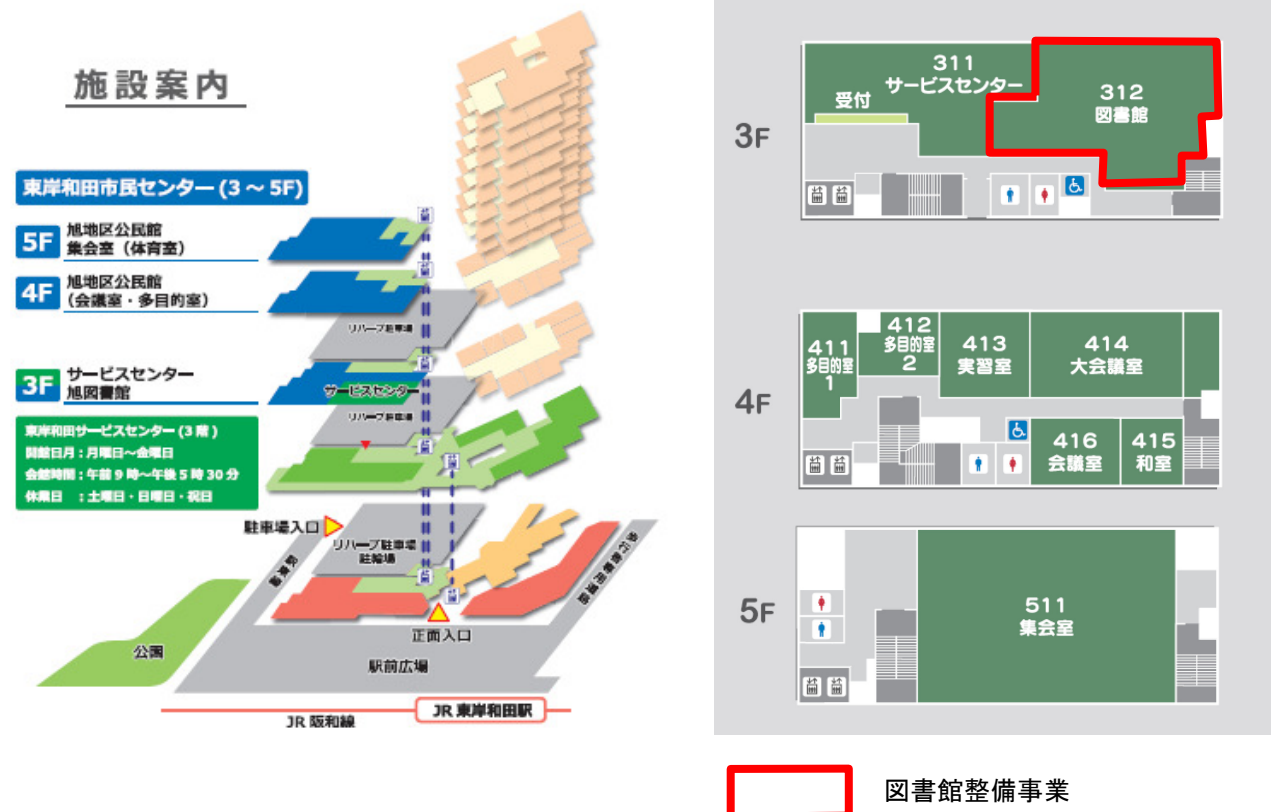
図書館整備事業

事業費；102,081 千円（本工事費 35,041 千円、床取得費 67,040 千円）

【整備状況】



【整備内容】



【整備効果等】

- ・ 図書スペースの拡大、蔵書の充実および分館への機能昇格により、長期の図書館未利用者の発生が抑制され、新規登録者数も大幅に増加。地域の利便性向上に寄与した。

旭図書館



旭図書館

- ・ 子どもに利用しやすいよう児童書を多く蔵書
- ・ 絵本コーナーからは、電車を見ながらお話し会や講演会が可能

事業の実施状況・効果発現状況

◎ 提案事業（地域創造支援事業）

レンタサイクル事業

事業費；2,292 千円

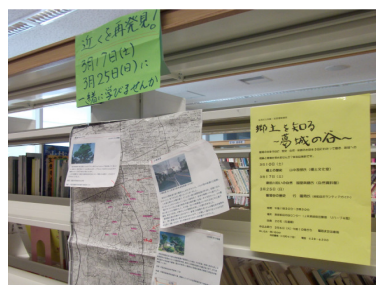
【事業状況】



【整備効果等】

- ・ レンタサイクル社会実験の効果検証により、実験協力体制を維持しながら旭図書館における地域情報発信等とのマッチングを実践することで、持続的な賑わいに寄与する可能性が判明した。

実施状況



延べ利用者数	381 人
観光	61 人
通勤・通学	124 人
その他	196 人
利用登録者数	171 人
市内登録者数	28 人
市外登録者数	143 人

事業の実施状況・効果発現状況

◎ 提案事業（事業活用調査）

事業効果分析調査

事業費；997 千円

【事業状況】

事業効果分析調査により、まちの課題の変化が把握でき、今後のまちづくり方向性の検討に寄与した。

【まちの課題の変化】

- ・ 多彩な活動が数多く行われ、年間平均稼働率が増加したが、老朽化した施設の廃止等により年間利用者数が減少した。また、東岸和田駅周辺施設のたまり空間として駅前広場が利用される反面、道路上におけるガムのポイ捨て等が発生し、快適な都市空間の阻害要因となっている。東の玄関口（ゲートウェイ）として相応しい賑わいを創出し、様々な施策の組合せにより、市民センターの年間利用者数の増加を図る。
- ・ 慢性的な交通渋滞と市域分断の解消を図る鉄道高架化の早期実現への要請が高まった。さらに、避難所である東岸和田市民センターにおける、災害時の救護活動や物資輸送などが円滑に行えるよう市域の緊急交通路整備の重要性が高まった。また、市民行動に応じた駐輪場の適正配置に対するニーズが高まった。
- ・ 今回は、本格的実施には至らなかったが、レンタサイクル社会実験の効果検証では、利用者属性の把握、テナント関係者に対するまちづくり意識涵養などの効果とともに、鉄道高架化事業完成時にレンタサイクル事業再開の可能性を確認でき、地域の中核施設となった市民センターのアクセス向上に寄与する交通手段の充実ニーズが高まった。